

1. 件名：「浜岡原子力発電所3号機及び4号機の地震等に係る新規規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング(112)、(145)」

2. 日時：令和3年11月25日(木) 10時00分～12時10分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者(※：TV会議システムによる出席)

原子力規制庁：内藤安全規制調整官、熊谷管理官補佐、佐口主任安全審査官、海田主任安全審査官、谷主任安全審査官、西来主任技術研究調査官※、松末技術参与、杉野首席技術研究調査官、道口主任技術研究調査官

中部電力株式会社：原子力本部 原子力土建部 執行役員

中川原子力土建部長

他11名(このうち7名がTV会議システムによる出席)

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち歴史記録及び津波堆積物に関する調査について(コメント回答)
- ・浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち歴史記録及び津波堆積物に関する調査について(補足説明資料)

<<本年11月15日に受取済み>>

- ・浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について(コメント回答)
- ・浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について(補足説明資料)
- ・浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について(コメント回答) データ集

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	じゃあそろそろ始めたいと思いますので6の方をお願いします。
0:00:07	はい。おはようございます複製規制庁サグチですけれども、本日は浜岡原子力発電所の基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価ということと、もう一つですね歴史記録及び津波堆積物に関する調査という2件について、
0:00:23	ヒアリングを行いたいと思います。
0:00:26	それではご説明の方、中部電力の方からよろしく願いいたします。
0:00:34	中部電力アマンでございます。10月21日に行くためのヒアリングをさせていただきましたプレート間地震の津波評価について、ヒアリングの中で事実確認いただきまして表現等いろいろこちら側で修正をしたほうがよりわかりやすいという点を
0:00:53	直して参りましたので、今日御説明させていただきますもう1点、11月15日に2回目のヒアリングさせていただきました歴史記録及び津波堆積物に関する調査について、こちらもヒアリングで御確認いただいた事項についてより
0:01:10	わかりやすい表現等に修正して参りましたあわせて御説明させていただきますがまず、プレート間地震の津波評価のほうから説明させていただきたいと思っております。説明時間をおよそ20分程度になります。よろしく願いいたします。
0:01:24	そう。
0:01:25	はい、中部電力カトウでございます。
0:01:27	浜岡原子力発電所基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価についてのコメント回答について前回ヒアリングからの変更点を中心に説明いたします。3ページをお願いします。
0:01:42	3ページですが、今回コメント回答を反映しまして主要な内容を整理したプレート間地震の津波評価の全体概要作成して、内閣府モデルの評価結果が内ずるとなっていることを見える化しております。
0:01:55	その通りプレート間地震の津波評価は南海トラフのM9クラスのプレート間地震を対象としてオレンジの太字で示す内閣府の最大クラスモデルのパラメータを含めて、不確かさを考慮した津波評価を行いました。
0:02:09	まず滑り量分布はプレート間地震の最新知見に基づいて、青色で示す内閣府2012によるM9クラスの地震の滑り量分布、
0:02:18	正対する沿岸域に大きな津波を発生させる滑り量分布、その発生として分岐断層への伝播や超滑り域の深さを深くした滑り量分布と、
0:02:28	さらにその下に緑色で示した土木学会2016によるM9クラスの地震の滑り量分布、広域の津波高の再現性を考慮した滑り量分布など、複数の滑り量分布を用いて検討することとし、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:42	その右側の表ですが、パラメータスタディでは国内が国内外の巨大地震津波の発生事例を踏まえて、内閣府の最大クラスモデルのパラメータを含めて検討を行いました。
0:02:53	またパラメータスタディは国内外の巨大地震津波の発生事例を踏まえて段階的に実施しており、具体的なフローは 4 ページにお示ししております。
0:03:02	その津波評価結果は一番右側の表に示す通りで、敷地前面では最大 22.5m となりました。
0:03:10	ここで評価地点によって影響の大きいケースが異なりますので、評価評価地点ごとに最も影響の大きい数値を赤字でお示ししています。
0:03:19	また津波評価結果の妥当性確認として内閣府 2012 の最大クラスモデルの津波評価等と比較し、敷地前面を含むすべての評価地点において、より保守的な津波評価となっているということを見える化しております。
0:03:33	次の 4 ページは前回ヒアリングでもお示しているプレート間地震の津波評価の具体的な検討フローになります。
0:03:40	検討フローの変更点について、前回までは日本海溝の手法を用いたモデルの評価を、検討波源モデルと横並びで行っていましたが、今回、右下に示す通り、検討波源モデルの津波評価の妥当性確認の項目を追加して、
0:03:56	赤破線で囲った検討波源モデルの津波評価全体の妥当性確認であることを明確にし、日本海溝の手法を用いたモデルの津波評価等は、その中で説明する構成としました。
0:04:08	なお日本海溝の手法を用いたモデルの名称についても、日本海溝の津波評価手法モデルに統一しました。
0:04:16	5 ページから 10 ページにかけてですが、これまでの審査会合におけるコメントの一覧を示しております、11 ページが本日の説明内容。
0:04:25	12 ページは前回の会合でいただいたコメントに対する回答の概要になります。
0:04:31	13 ページをお願いします。
0:04:37	13 ページですがこちらはプレート間地震の津波評価の全体像とコメント回答との関係ですが、フローの下から 2 番目のさらなる不確かさの考慮について検討波源モデルのパラメータスタディの中で説明するよう構成を見直すとともに、先ほど説明した通り、検討波源モデルの津波評価の妥当性確認は、
0:04:56	検討波源モデルの津波評価全体に対して行うよう変更しました。
0:05:01	次の 14 ページからは、No.4 コメント回答、海溝軸付近の滑りの不均質性の影響についてお示ししていますが、前回ヒアリングから変更ありませんので説明は割愛いたします。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:05:12	次 43 ページをお願いします。
0:05:23	43 ページですが、こちらには参考としまして、第 662 回審査会合の評価からの評価概要の変遷を追加しました。
0:05:32	一番左の第 662 回審査会合でも、さらなる不確かさの考慮として内閣府の最大クラスモデルの津波評価を説明していましたが、第 662 回審査会合及びその右の第 717 回審査会合等含めて、
0:05:47	これまでの評価では黄色の点線より上に示す、各種パラメータの網羅的検討による方法と、それより下に緑で示す DD 代表パラメータの検討による方法等では評価の考え方が異なるため、b の方ほうで検討されたパラメータへの方法の中で考慮する必要はないと説明してきました。
0:06:07	これに対して、一番右側の今回の評価ではコメント回答に伴って、b の方ほうで検討された内閣府の最大クラスモデルのパラメータをの方法によるパラメータスタディの中で検討することとしており、より踏み込んだ評価をしていることを見る化しました。
0:06:23	44 ページも、参考としましてこれまでのプレート間地震の全審査会合において、それぞれ追加で検討してきた項目を見る化しています。
0:06:33	プレート間地震の津波評価については、審査会合でのコメントを逐次真摯に反映し、国内外の地震津波の科学的知見に基づき、波源モデルの設定を精緻に行い、敷地への影響が大きい波源を確認しています。
0:06:46	No.4 コメント回答に関する変更点は以上になります。
0:06:50	次に 51 ページをお願いします。
0:07:01	51 ページからは、プレート間地震の津波評価の全体になりますが、こちらも前回からの変更箇所を中心に説明します。
0:07:08	1 から 3 章については前回から変更ありませんので、4 章の検討波源モデルの津波評価から説明いたします。117 ページをお願いします。
0:07:24	はい。
0:07:29	117 ページですけれども、ここでは検討波源モデルの設定についてお示していますが、先ほども説明しました通り、構成の変更により、前回までここで行っていましたが日本海溝の津波評価手法モデルの説明は後段のご承認移動しております。
0:07:44	124 ページをお願いします。
0:07:51	ここでは検討波源モデルの設定の流れをお示していますが、検討波源モデルの設定について青色の枠で示す敷地周辺の津波に着目したモデルでは内閣府 2012 により特性化された M9 クラスの地震の滑り量分布を用いますが、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:08:07	緑色の枠で示す広域の津波に着目したモデルでは、土木学会 2016 により特性化されたM9 クラスの地震の滑り量分布を用いています。
0:08:17	ここで前回ヒアリングでは広域モデルの滑り量分布について、スギノほか 2014 による滑り量分布と、土木学会 2016 による滑り量分布と学校材していましたが、
0:08:28	スギノほか 2014 号、南海トラフに適用して減少したのが土木学会 2016 ですので、今回土木学会 2016 に基づく滑り量分布として記載を統一しています。
0:08:40	125 ページ以降、158 ページにかけて検討波源モデルAからDの設定については説明がありますが、前回ヒアリングから大きな変更ありません。
0:08:50	158 ページと 159 ページが検討波源モデルの設定の結果になりますが、先ほどご説明の通り、日本海溝の津波評価手法モデルは後ろの 5 章に移動させております。
0:09:03	160 ページをお願いします。
0:09:09	160 ページからは 4.2 検討波源モデルのパラメータスタディについての変更点を説明いたします。
0:09:15	161 ページは転貸フロー
0:09:18	162 ページと 163 ページはそれぞれパラメータスタディ全体の概要と、概略パラメータスタディの検討方針
0:09:26	164 ページには、水位上昇側下降側の概略パラスタ結果のまとめを示しています。
0:09:32	ここでも日本海溝の津波評価手法モデルは後ろの 5 章に移動させております。
0:09:38	165 ページから 172 ページに概略パラスタの結果一覧をお示していますが、ここで前回からの変更点としまして、パラスタ結果を設定における小数点以下の数値の記載方法について、具体、具体的な考え方を各ページにお示し
0:09:54	津波評価結果の小数点以下の数値の記載方法を統一的なものとなりました。
0:09:59	例えば 165 ページは、検討波源モデルAの水位上昇側の結果ですが、左下の注釈を追加しております。
0:10:07	こちら読み上げますが、
0:10:08	ほかの検討波源モデルと比較して相対的に影響の大きい敷地前面の評価地点に着目し小数点第 1 位までの津波評価結果から、津波影響を代表するケースを選定しました。
0:10:21	小数点第 1 位までの津波評価結果からではケースを絞り込めない場合には、さらに小さい桁するまで比較し選定しました。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:10:29	なお津波評価においては小数点第1に切り上げて保守的に津波高等を評価するということで、基本的には最終の評価結果と同じ小数点1桁の表記としてこのページで言いますと中央の下の表ですとか右側の表のように、
0:10:44	小数点1桁の結果ではケースを絞り切れないという、というような場合には、括弧書きで小数点蓋を開けた以降の数値を示して設定選定した根拠がわかるようにしております。
0:10:55	後段の詳細パラメータスタディやさらなる不確かさを考慮した結果につきましても同様の表記を行っております。
0:11:02	184 ページをお願いします。
0:11:10	184 ページでは遷移領域の有無が津波評価に与える影響の確認結果としまして、遠州灘沿岸域の痕跡再現モデルの遷移領域ありなしの結果をお示していますが、前回ヒアリングのときに説明しました通り、右側の水位下降側について結果を張り間違えておりましたので今回適正化いたしました。
0:11:31	193 ページをお願いします。
0:11:39	193 ページから 196 ページには、各基準断層モデルの評価結果の詳細をお示していますが、表のフォーマットを概略パラスタ結果と同様のものに統一し、評価地点を横並びにして影響の大きいケースがどれであるかわかりやすくしました。
0:11:56	197 ページから 200 ページには、各基準断層モデルの概略パラスタと詳細パラスタの因子が津波水位に与える影響の分析結果をお示しています。
0:12:08	101 ページから 204 ページにはその算出根拠をお示していますが、パラメータスタディによる設定とは異なり、この影響の感度分析では小数点第1、第2以降まで比べる必要がありませんので、ここで概略パラスタと詳細パラスタの所小数第1位までの津波評価結果の数値を転記することに統一しました。
0:12:28	209 ページをお願いします。
0:12:36	209 ページからはさらなる不確かさの考慮について説明します。
0:12:40	109 ページは検討方針で検討波源モデルの詳細パラメータスタディの結果選定した波源モデルに対して、さらに国内外の巨大地震津波の発生事例に対して、より慎重に裕度を持って津波評価に影響の大きい滑り量とライズタイムの組み合わせを検討しました。
0:12:58	110 ページには、さらなる不確かさの考慮の考え方。
0:13:01	111 ページには、さらなる不確かさを考慮した場合の滑り量とライズタイムの組み合わせについてお示しています。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:09	212 ページはこれまで補足にありましたライズタイムに関する検討概要と津波評価における設定方針について、これまでのライズタイムに関するコメント回答を反映したものを本体資料に追加しました。
0:13:23	213 ページから 215 ページには、各基準断層モデルに対してさらなる不確かさを考慮したモデルのパラメータ設定についてお示ししています。
0:13:32	ここでも左側の表の小数点以下の数値の記載は概略パラスタと詳細パラスタの結果の記載とあわせています。
0:13:40	また右側の具体的なパラメータ設定の表については、設定方法を具体的に記載しました。
0:13:47	115 ページで 1. 前回からの変更点がありまして、一番上の滑り域のパラメータスタディ結果の表の 3.0 と 3.5-5 号取水槽の結果について、前はそれぞれ 10.5 分と 10.4 分としておりましたが、
0:14:03	概略パラスタ結果からの天気が正しくありませんでしたので、今回それぞれ 10.6 分と 10.5 分等記載を適正化しております。
0:14:13	116 ページは、各基準断層モデルの詳細パラスタモデルに対してさらなる不確かさを考慮した結果をお示ししています。
0:14:21	赤と青の網かけて示す記述が各基準断層モデルのうち敷地への影響が最大となるケースになりまして、217 ページが最大となるケースの津波評価結果になります。
0:14:32	218 ページは、さらなる不確かさを考慮した津波評価結果のまとめになります。
0:14:39	219 ページからは 5 章、検討波源モデルの津波評価の妥当性確認について説明します。
0:14:46	約 21 ページをお願いします。
0:14:53	221 ページは検討方針です。
0:14:56	左の検討波源モデルの津波評価の妥当性確認として右側黒破線で示す南海トラフにおいて検討されたM9 クラスのモデルと緑破線で示す日本海溝において検討されたN9 クラスの津波評価手法を用いたモデルの津波評価を実施し、
0:15:11	検討波源モデルの津波評価と比較しました。
0:15:15	まず南海トラフにおいて検討されたM9 クラスのモデルとしては内閣府の最大クラスモデルと、土木学会 2016 のモデルがありますので、そちらのモデルそのものを用いて津波評価を行いました。
0:15:28	さらに日本海溝において検討されたM9 クラスの津波評価手法を用いて、日本海溝の津波評価手法モデルを設定した津波評価を行いました。
0:15:37	ここで日本海溝津波評価手法を南海トラフに適用することに伴い、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:15:42	破線の左下の記載の通り、波源域に関するパラメータ断層面積構成率等は南海トラフに関する知見に基づき設定することとしました。
0:15:52	前回ヒアリングからの変更点として、応力降下量ライズタイムも含めその他のパラメータは日本海溝の津波評価手法と同じ数字に合わせることにしました。
0:16:03	222 ページは、内閣府の最大クラスモデルの検討ケースの設定で、上の箱書き二つ目の通り、ここでは参照の内閣府の最大クラスモデルの影響確認の結果から、敷地への影響が大きいケース 1 及びケース 8 の検討。
0:16:19	ケース 8 の検討ケースとして選定して津波評価を行い、検討波源モデルの津波評価と比較しました。
0:16:27	123 ページは、土木学会 2016 モデルの検討ケースの選定についてお示していますが、
0:16:33	土木学会 2016 では、南海トラフの開会軌道に中央の図に示す M9 クラスの基本断層モデルを設定し、
0:16:41	滑り域の位置に関する概略パラスタと破壊開始点等の詳細パラスタを実施しています。
0:16:48	滑り域の位置は図の通り、左から西側モデル基本断層モデル東側モデルの 3 ケースがあり、破壊開始点は滑り域周辺に 6 ヶ所設定しています。
0:16:59	ここで和を滑り域が最も敷地に近く、敷地への影響が大きいと考えられる東側モデルを検討ケースとして選定して津波評価を行い、検討波源モデルの評価と比較しました。
0:17:11	224 ページは、日本海溝の津波評価手法モデル①から③の検討方針になります。
0:17:17	フロー上段に示す通り、まず日本海溝において検討された M9 クラスの津波評価手法及びパラメータを用いて、日本海溝津波評価手法モデル①から③を設定し、次に、敷地への影響の観点から、滑り域の位置及び動的破壊特性ライフタイム破壊伝播速度破壊開始点を検討し、
0:17:37	想定津波評価を、検討波源モデルの津波評価と比較しました。
0:17:41	なお検討対象領域が日本海溝ではなく南海トラフとなることを踏まえ、波源域に関するパラメータ断層免疫面積構成率等には南海トラフの知見を反映しました。
0:17:53	約 25 ページから、日本海溝モデル①から③の設定の詳細を示しています。
0:17:59	前回ヒアリングからの波源設定の変更について、例えばこのページの、日本海溝モデル①では応力降下量は 3.1MPaライズタイムは 60 量と、日本海溝の津波評価手法のパラメータに合わせるように変更しています。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:18:15	次ページ以降に 130 ページにかけてお示ししている日本海溝モデル②③も同様です。
0:18:22	231 ページには日本海溝モデル①から③の滑り域の位置及び動的破壊特性の検討についてお示ししています。
0:18:32	具体的な設定方法は、表の右側にお示しており、滑り域の位置については、敷地に近い、東海地域の滑り域の位置を東西へ約 10km ずつ移動させた影響検討を実施し、敷地への影響が最も大きい値を検討しました。
0:18:47	この影響検討は、前回資料に掲載した日本海溝モデルの津波評価結果となり、詳細については補足説明資料 8-2 表に記載しています。
0:18:57	また動的破壊特性であるライズタイム、破壊伝播速度破壊開始点は、それぞれ日本海溝の津波評価手法に基づきライズタイムを 60 秒破壊伝播速度は、水位上昇側で 2.5、下降側で 1.0 破壊開始点を滑り域と超滑り域の周辺に 6ヶ所としました。
0:19:17	232 ページには各モデルの断層パラメータの一覧をお示ししています。
0:19:22	233 ページから 237 ページには各モデルの津波評価結果を示しています。
0:19:29	また 238 ページには、水位上昇側、
0:19:33	239 ページには、水位下降側の検討波源モデルの津波評価結果の一覧をそれぞれお示ししています。
0:19:41	水位上昇側下降側ともに南海トラフの M9 クラスのモデルのモデル及び日本海溝の津波評価手法を用いたモデルの津波評価結果は検討波源モデルの津波評価結果を下回り、検討波源モデルの津波評価結果は、より保守的な津波評価となっていることを確認しました。
0:19:59	140 ページと 241 ページには参考として検討波源モデルと内閣府の最大クラスモデルの津波評価結果の比較。
0:20:07	142 ページには、敷地前面の最大、最大上昇水位分布の比較を示しています。
0:20:13	ここで 241 ページの水位下降側についてですが、右側の内閣府の最大クラスモデルケース 8 の 4 号取水塔水位低下時間 6.7 分の数値について、前回資料では参照からの天気が正しくなくて、6.6 分と記載していましたので、今回数値を適正化しました。
0:20:33	143 ページからまとめになります。
0:20:37	244 ページと 245 ページにそれぞれ水位上昇側及び水位下降側の津波評価結果を示しています。
0:20:45	敷地への影響が最も大きいモデルは、上昇側で二つ、下降側で一つ隣選定したモデルは前回ヒアリングから変わっていません。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:20:54	246 ページと 247 ページには、冒頭で御説明したプレート間地震の津波評価の全体概要と検討フローの再掲
0:21:02	248 ページは最終的なプレート間地震の津波評価。
0:21:06	249 ページにはまとめを示しています。
0:21:10	プレート間地震の津波評価について、敷地前面の最大上昇水位はT+22.5 m、
0:21:16	34 号取水塔の水位低下時間は 13.2 分となりました。
0:21:21	コメント回答資料の説明は以上になりまして、引き続き補足説明資料の変更点について御説明いたします。
0:21:28	まず補足説明資料の 16 ページをお願いいたします。
0:21:43	こちら 16 ページですけれども、12 号取水槽の取水炉出口流路縮小箇所構造のページを今回追加しました。
0:21:52	次にページがまた飛びますが、167 ページをお願いします。
0:22:06	167 ページですが、これまで内閣府の最大クラスモデルケース①と、ケース⑥の断層パラメータ表しか掲載されておりませんでしたので、今回ケース⑧を追加いたしました。
0:22:17	またページが飛んで恐縮ですが 612 ページをお願いいたします。
0:22:33	こちら 612 ページからですけれども、今回新たに検討波源モデルの津波評価の妥当性確認の章を追加しまして、土木学会 2016 モデル日本海溝の津波評価手法モデル①から③に関する詳細について、ここの発症以降に記載することとしました。
0:22:50	また最後ですから 702 ページをお願いいたします。
0:23:05	こちら参考文献の 702 ページですけれども、こちら 1 ページが抜けがありましたのでこちら追加をしております。補足説明資料の変更箇所につきましては以上でございます。最後にデータ集の変更点につきましてデータ集の目次の 2 ページ目をお願いいたします。
0:23:25	データ集ですけれども、171 ページ以降の 2 章についてですが、前回ヒアリング時に説明しました応力降下量とライズタイムが異なる日本海溝のモデルは、滑り域の位置の影響分析に用いていますが、今回の日本海溝の津波評価手法モデルとは異なりますので、
0:23:41	それを識別するために、各モデルの名称に括弧書きで応力降下量 3.0MPa ライズタイム 150 秒という記載を追加しております。
0:23:51	プレート間地震の説明につきましては以上となります。
0:23:57	はい。規制庁サグチです。御説明ありがとうございました。そしたらまず一旦ここでプレート間と、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:05	の津波評価というところで言ったんで、確認ですね、させていただきたいと思います。
0:24:13	ちょっとまず私のほうから大きな点。
0:24:16	いくつかマイク使っていくかもしれないですけど、今回前回のヒアリングとそれから前回会合を何かの議論も踏まえてですねちょっと構成を変えられたということで、何が変わったかという、
0:24:34	一番わかりやすいのが4ページですかね、4ページにあるように、
0:24:39	基本的に中部電力として検討波源モデルABCDという四つについては、いわゆる自社モデルということでオリジナルモデルということで、遠州灘沿岸の痕跡再現モデルとかそれから南海トラフ広域の
0:24:59	痕跡再現モデルというものをベースに、まずこの四つ検討波源モデルを設定をしましたので、このモデルを当然概略から詳細パラスタをしていって、さらなる不確かさの考慮まで含めて全部こう、
0:25:17	まず評価を行った上で、妥当性というものを他のこれまでM9クラスの
0:25:28	あん妥当性が確認されているような手法で今の自社モデルに対する津波評価の妥当性を確認をしましたと前回のヒアリングから実はこれ追加されていてその妥当性の確認モデルというのも、
0:25:45	実は、
0:25:46	前回まではあくまでもこう日本海溝の津波評価手法モデルと①から③というもののだけだったんですけど、今回はさらに内閣府の最大クラスモデルというもの等、土木学会2016モデルと
0:26:01	いうものをマツイ追加された上で、妥当性確認も行っているということですね、具体的なモデルがとれるかという、221ページとかありますけど、221ページの
0:26:17	右側のモデル
0:26:19	具体的に言うと6個のブロックですかね。
0:26:24	三つの波源モデルを使って、
0:26:28	実際にその評価された津波評価の結果というものを
0:26:33	その妥当性を確認をしたというそういう流れで最終的には、結局、御社が独自で
0:26:41	検討していききたモデル、
0:26:45	による津波評価がこういった妥当性確認のモデルによる評価を上回っているということで、あそこは
0:26:57	御社時十分に余裕があるという言い方をしましたけれども、
0:27:01	で、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:02	実際にはこの 221 ページにあるように内閣府の最大クラスモデルっていうのも当然入って行って、
0:27:12	で、
0:27:13	これまでの御説明とか議論の中で、この内閣府の最大クラスモデルっていうのは基本的にやっぱり
0:27:22	津波が大きくなるような、非常に大きな設定の仕方をしているという中で御社は実は、
0:27:36	結果ですね、あくまでも結果だけを見ると、
0:27:39	なんか一覧がありましたよね。
0:27:43	ちょっとごめんなさい。すぐ出てこないんですけど。
0:28:01	238 ページなどでしょうか。
0:28:07	はい、ありがとうございます。そうですね、これ結果の水の結果だけ見ちゃうと、実は、そのさらなる不確かさというものを考慮しない場合の結果アップをして、この内閣府の最大クラスモデルというものを除けば、全部は
0:28:27	ているんでいいんですよ。そこはただけど御社として、
0:28:33	資料には何かこれまでのその会合でのコメントを踏まえてとかありますけど、あくまでもこれは御社が安全性というものをきちんと考慮するというの立場にとるとするのは立ってというか、そういう姿勢で、
0:28:51	こういったさらなる不確かさということも含めて評価を
0:28:58	していると。
0:28:59	だから、最終結果としては今の敷地前面では 22.5 メーターとなっておりますけど。
0:29:07	そういう内閣府のモデルもこれまで十分に分析もした上で、さらに安全性というものを配慮というか考慮した。
0:29:18	結果、今の
0:29:20	最終結果としていると、そういう理解でよろしいですか。
0:29:24	はい、中部電力アマンでございます。サグチさんの御理解の通りでございます。従来から私どもとして内閣府の最大クラスモデルっていうのも作成当時から最大の最大であろうということを御説明させていただいて、
0:29:40	きておりました、その点については共通理解をいただいているのかなと思ってございましたが、やっぱり前回の会合の中で議論あった通りやっぱり無形の事例っていうのが二つしかないっていうのはどうしてもそれを我々としても地元に対して、
0:29:59	。
0:30:00	そこで本当に安心いただけるかというところで、社としてしっかり考えましてやっぱり無給AAIに二つしかないんです。そこはもう少し慎重に考えるべきだとい

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	うことで、最大の最大である内閣府のライズタイム 60 秒と滑りを 37 メーターの関係も
0:30:19	パラスタの中に織り込んで来たということで採算おっしゃる通り、238 で何かこう以外の隔週検証されたモデルよりは、当社のモデル化ってはいたんですけども、内閣府も内数に入れて、
0:30:36	しっかり当浜岡に対するその津波の影響というのを評価したというつもりで今回持って参りました。
0:30:46	はい、規制庁昨日ありがとうございました。なのでそれが今日一番最初に冒頭ですかね 3 ページの御説明にあった内閣府 2012 の結果も内数止まっているという御説明だと思いますけれども、それで
0:31:09	あとはあそこちょっと細かいことになってしまいますので、まずちょっと
0:31:17	ほかに大きなところで何か確認が必要などあれば、こちらの規制庁側で何かあればちょっと確認をまずしていただければと思いますけど。
0:31:49	中部電力アmanoでございます。今日御説明させていただいた中のもう一つのポイントとしては、
0:31:56	3 ページ 4 ページにも記載させていただきましたが、当社の独自モデルとして検討波源モデル ABCD というものを設定しておりますので、痕跡再現モデルからそれぞれつくってるんですけど、M9 に
0:32:12	するときにやっぱりなんでしょう世の中に全く何も無いモデルというわけではなくて、ちゃんとそこは内閣府モデルであったり土木学会モデルっていうものをの滑りをしっかりと織り込んだ上でやってるんで。
0:32:30	何でしょう、見当違いだとか持ってきたものではないということも見える化をさせていただいたということが一つポイントになります。はい、規制庁サグチされてございますので基本的に今御社が独自モデルと言っている検討波源モデルというのは、
0:32:46	少なくとも、いろんな様々な知見を最大限に取り入れて作成をした上でさらにパラスタとかもそういういいにおいに余裕があるのかどうかっていうのもあるんですけど、そういった
0:33:05	あくまでも知見というものをこれまでの国内外の
0:33:09	こういった M9 クラスの地震津波を含めて、最大限に取り入れられた。
0:33:17	評価ということと、そういうのも当然見ながら、その班検討波源モデルは設定されていると、そういう理解でよろしいですね。
0:33:26	中部電力アmanoでございます。もうサグチさんのご理解の通りでございます。その辺が、3 ページで端的に中部電力の

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:33:36	津波評価ってプレート間津波を勝手な日程と人目で見ればも内閣プラスアルファまでしっかり考えましたということがわかるように今回見える化させていただきました。
0:33:52	はい。サービスですねちょっと時間もまだこれ先の
0:33:57	歴史記録等があるというのはちょっと細かいところも含めて、私のほうからさらに確認を
0:34:02	させていただきたいと思いますけども、
0:34:06	まず 17 ページですけど。
0:34:10	これ、敷地前面で約 50kmでありますけど、ほぼ同 1 っていうんですかね。
0:34:18	この位置が何ていうんすかね最短距離じゃないんですけど。
0:34:22	でいいんですか何か最短距離だとなんかちょっと違う違うような気がして、あくまでもここ津波がこう来るといの中で最短距離をでもまあちょっと微妙ですけどちょっとそこは、
0:34:36	どうでしょうか。本当にこの 50 キロっていうのでいいのかどうかっていうところなんですけど。
0:34:45	はい、中部電力の森です。この線の引き方なんですけれども、こういうこと。
0:34:56	。
0:34:57	ちょっと大きい図がなくて恐縮ですけど、例えば 99 ページの
0:35:03	我々が使ってる南海トラフの波源域のトラフ軸からはもう困る形状というか、トラフ軸からどのようにメッシュ割りをしているかということなんですけれども、このメッシュに沿っていません。
0:35:19	それぞれのところから引っ張っていると、要はトラフ軸から陸域まで全域見たときに、直交する方向に直交追加も波が来る方向ですかね、このメッシュ切れているというふうに理解してますので、ここに沿った形で、
0:35:35	今断面を引いたりとか線を引っ張ったりということをしております。
0:35:43	ということで基本的にそのなんですかね、物物理的って言うていいのかな、物理的な単純なその最短距離ではなくって、津波の連覇なんかも考えた上での最短距離ってということですね。わかりました。
0:36:15	すみません、引き続きなんですけど、77 ページちょっと私これ、
0:36:19	ちょっと以前から気になってた部分もあって、ちょっと
0:36:23	そろそろ大詰めを迎えてきたこともあり、改めて確認させていただきたいんですけど。
0:36:29	ここで津波の再現性
0:36:34	のところで、Kが 0.95 ってこれ前の時は実は 0.96 だったんですよ。
0:36:44	ちょっとどっかのタイミングから、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:48	0.95 に変わって 0.95 とすると例えば 9 号 1 とか休校 2 だったらこの
0:36:56	いわゆる土木学会の目安っていうのを満足すると思うんですけどもしこれが 0.948 とか、
0:37:04	949 とかで 0.95 を
0:37:07	下回るものだとちょっと昆布安から外れちゃうような気がするんですが、ここの 辺り実施事実関係として、
0:37:16	なんか最初のほうは 0.96 だったと思うんですけど、で途中から何かちょっと
0:37:22	数字が 9 号に変わったということとこの目安との関係、ちょっとそこをもう 1 回 教えてもらっていいですか。
0:37:36	中部電力の森です。
0:37:39	本日後段で説明します歴史記録と津波対策委員長のコメント回答のほうで、
0:37:46	説明させてください。投資コメント回答の資料の
0:37:51	10 ページに、
0:38:04	昨日もしこのあと御説明あるんだったらそこで御説明いただければと思います ので、事実関係だけ御説明させていただければと思います。わかりました。はい。
0:38:17	はい。コメント回答資料のほうで 10 ページのほうでちょっとどこかのタイミング で御説明させていただいた。
0:38:24	かとは思いますがけれども最新の文献を追加しておりまして、それに伴って経 過 0.96 から 0.95 に変わっているというのが事実でございます。
0:38:40	ちょっと小数点第 9 号幾つなのかというところをちょっと今この中で今お答えで きないんですけども、いずれにしろ 0.95 ということで保守的にはなっていると 思っていますので、そこから出発すること自体は
0:38:57	問題ないのかなというふうに現段階では思っております。
0:39:02	以上です。
0:39:05	はい、佐口です規制庁サグチですけども、事実関係はもう確認できました
0:39:11	観測の記録というのがこの痕跡高のこれがちょっと増えたんで、ちょっと系は 変わりましたよという、
0:39:19	ところでですね、どっかにそのあったんですけど、例えばこれは 0.95 でなくて、 そのあと 81 ページとかのかな。
0:39:33	80 ページ見ると、それはそれで 90.98 っていうのが実はあって 1.6MPa です ね、すると、これの方がじゃあ逆に言うといいんじゃないかっていうのもあるん ですけど、そこは、
0:39:47	平均応力
0:39:48	降下量、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:51	この関係なんですかね、それとも結局この 1.6 にしても 1.7 にしても、あくまでもこれは遠州灘沿岸の痕跡再現モデルというものであって、さらに検討を応用も
0:40:05	波源に持っていくときにはあんまりこの 1.6 だろうが 1.7° っていうのは関係なくなっちゃうんですかね。
0:40:13	はい、中部電力モリモトです。まずここへと痕跡については追加ということではなくて、新たな分岐のみ直されたので変わっているというのが自治ですので、81 ページなんですけどそうおっしゃる通り 0.1. 6 名がでも 1.7 メーカーでも、こちらどちらでもよいというか、
0:40:31	再現性という意味では経営が 1 日から 1.6 だとか、1.5 から 1.6 の間とかっていうところの方がふさわしいとは思ってますので、ただのこのモデル自体は応力降下量がここで何か決まったからといって、我々の M9 クラスの地震の津波評価に関わるということではなくて、
0:40:50	これとあの痕跡再現モデルと検討波源モデルのパラメータの比較なんかするときに、参照するという程度のものでございますので、そのときに小さめよりは、どちらかで保守的にここを決めておいて、そこから検討波源モデルとの差を見たほうが、
0:41:08	フェアじゃないかなという考えもありまして、今、
0:41:12	再現性の目安の中で、できるだけ保守的なものということでこの 1.7 のものを選んでいくということです。以上です。
0:41:20	はい、規制庁おりません。中部電力ナガマツですと本店がちょっと先ほどの
0:41:26	医師の場合外気の痕跡の K の辺りについて補足ですけども、先ほど森から申し上げた通りなのか御説明したかもしれないんですけども浜松周辺の地点で文献の更新に伴って
0:41:40	やっぱりかかったところがありましてそれに伴って辺りがちょっと変わってるってことなんですけども、その他の資料の中の数字と同じようにこの 0.95 という辺りも繰上処理を行っていて、もうちょっと細かいところを見ていくと 0.944 程度の値になっているということで補足いたします。お願いします。
0:42:00	規制庁サグチです。ありがとうございます。事実確認だけは一応できましたので、引き続きですけど 122 ページで、
0:42:11	これ、ごめんなさい。
0:42:15	文献文献の引き方じゃないんですけど、すごい細かいことで恐縮なんですけど。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:21	122 ページの左っかわの国内外の巨大地震の発生する質問いただいたこと歩 行器ってあるんですけど、これで引用されている地震調査委員会 2020 って、 これで合ってるんですけど。
0:42:45	規制庁させ、すみません
0:42:48	ちょっともう私も誤解誤解かもしれないんで、この内閣府 2020 かまと思ってい て、そういう。
0:42:57	結構御社文献公印をされていることが結構多いんですけど、
0:43:03	内閣府とか、
0:43:06	地震調査委員会っていっぱいあるんですよ。それで、
0:43:10	ちょっとこれはお願いなんですけど例えば地震調査委員会 2000
0:43:15	20 っていても、多分、後ろの文献とか見ると、いっぱいあって、
0:43:20	例えばABCみたいな感じで、どれがここでは、引用されているか。
0:43:27	ていうのを、
0:43:28	ちょっとわかるように、
0:43:31	内閣府にあと、
0:43:36	地震調査委員会っていう特に二つはいっぱい出てくるんですけど、何か所々 によって実は引用のものが違ったりして、ちょっとそこは何かうまく区別でき るようにしていただければと思います。
0:43:55	はい、中部電力モリモトです。承知しました、少し識別がしっかりできるように 再確認させていただきますと、この点については、申し訳ないです。地震調査 委員会は間違いなく 2020 というのは、おそらく間違っておりまして、長期評価 から引いていると思いましたので再確認させていただきます。
0:44:30	はい、規制庁サグチですけれども、
0:44:34	じゃあ、
0:44:36	ちょっともう最後のほうになりますけど、妥当性確認で使われているモデルで 再度ちょっと私の理解が追いついてない部分があってちょっとここはなぜそう なるのかというのを教えていただきたいんですけど。
0:44:53	230
0:44:55	地域の
0:44:59	200 どちらでもいいです 228 ページ。
0:45:05	日本海溝の津波評価モデル②イトウ③の設定のところ、
0:45:12	これ女川の見ればわかるのかもしれないんですけど、真ん中の
0:45:18	表の背景領域ですね、背景領域の平均滑り量。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:45:26	今までというか前回の会合でこれ 0.5 倍だったんですけど、前回のヒアリングぐらいからこれ 1 倍となっていて、これは 230 ページも同じなんですけど、何でこれじゃ一番なの背景領域は基本滑り域とおんなじなのっていうのが下の
0:45:44	ちょっと小さい字で書いて、
0:45:48	この一方で当社の日本海溝の津波評価を手法。
0:45:54	モデル②③はそのスケーリング則の対象とする断層面積を日本海溝の津波評価手法までうちと同じとしてるからそのまま、
0:46:03	聴すべき等の滑り量が小さくならない。
0:46:06	小さくならない小さくならない。小さくする必要があるのかどうかというのはあるんですよね。そのため背景領域のすべてを基本滑りをと同じとして、
0:46:16	今日滑り域等の滑り量を補正せずに、
0:46:21	設定した。
0:46:23	てなっているんですけどこれは、
0:46:27	その先行サイトで三坑されている女川もそういう考え方で、
0:46:33	やっているのか、それとも御社がいろいろなこう
0:46:38	この女川モデルを
0:46:41	分析して、いや、多分こうだろうという形で、
0:46:47	こういう考え。
0:46:49	に至って、
0:46:50	設定をされたのか、ちょっとそこ
0:46:54	教えてくださいと言いますのは、もし後者であれば、これは、
0:46:59	またこれが温度オリジナルモデルになった。
0:47:02	でしまうの名ちょっとそこだけまず確認させてください。
0:47:08	対中部電力モリモトです。228 ページの下場を書いてある
0:47:15	1 行目 2 行目、女川の資料の 54 ページ参照というところまでは女川の資料に記載させております。
0:47:26	考え方として、前回は我々もそこまでしたがってはいたんですけども、スケーリング則の対象とする断層面積が①と②③と違うと、まず、
0:47:36	ナカガワのモデルでは違うとそれに伴って超滑り域の滑り量が少し小さくスケーリングと小さく出てしまうので、その補正をする必要があるということで、
0:47:49	背景領域を小さくしてもそれをもう超滑り域のほうに上乘せするというような補正を行っているというのが事実でございますので、当社は補正をする必要がないということは 2 行目以降に 3 行目以降ですね、書いておまして、
0:48:07	前回はこども従っておりまして、①と②③でスケーリング則の退職だ住みかえていたんですけども、今後それを

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:48:18	断層面積を変えるのはやめたということで、補正する必要もなくなったので、そのままおなかの手法に基づいて補正をしないという方法を選んで設定をしています。その関係で背景領域がSWISSビル基本滑り域と同じ整理になっている。
0:48:35	ということですのでちょっと公開の不等
0:48:38	モデルAとか、①②③の滑り不得手自体がちょっと女川と変わってきてしまって、何とか妙にこっちが起きてこっちが小さくてみたいなことになってくるので手法としてもこれでいいんじゃないかというふうに考えています。以上です。
0:48:55	対策です。
0:48:57	今のねいずれにしてもこの下の2行ってというのは、御社があ的女川モデルの分析されてそうそうその考えのもとに、
0:49:07	やっている、そういうことですね。いや、何が言いたいかって言うと、結局、
0:49:16	もう私も完全にちょっと理解しているわけではないのではっきりしたことは間違っていることを言うかもしれないんですけど、結局、この背景領域っていうのを0.5倍にするのと1倍にするのでは、当然、
0:49:32	最後の地震モーメントが変わってきて、そうするとこの地震モーメントっていうのは全部ですね、全部今日滑り期を滑り基本滑り背景領域というものを足したものです。今、今だと 8.8×10^{-22} 条になりますけど、これが変わってきて、そうすると、
0:49:49	その下の滑り量の調整、この係数0.7ですけど、これも変わってきますよね。そうすると、
0:49:59	いわゆる調整前調整後ってあるんですけど、この調整後っていうのが当然変わってきて、ただし、御社が先ほどの言われた超滑り域等の滑るを補正せずについていうのはこの調整5使っていないという意味でおっしゃっ
0:50:15	調整、いわゆる調整前の
0:50:19	そうそういう意味だったらまあわかるんですけどもし、
0:50:23	調整後の滑りっていうのを使っているんだと。
0:50:28	ちょっと何か今の
0:50:31	下2行の書き方、
0:50:34	あとは何かちょっと
0:50:37	違うのかなと、あくまでもこれ補正って書かれてますけど文章では表は調整って書かれてるんで、多分これ違うんだろかなとは思ってますけど、そういう意味じゃなくて、
0:50:50	個性というのが、その滑り量の何倍という意味の補正というそういう
0:50:55	理解ですかこの一番下の2行目。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:50:58	でも、
0:51:01	まず、すみません大前提だけ補足させていただければいいんですけど中部電力アマノです。ナガノ手法というのが①っていうのが広域を再現するモデルで面積が2割ぐらい大きくて、
0:51:17	②③というのは、来共益ですね。土産大きいだけ再現するもので面積が小さいという特徴持っております、それを解析していった最後その面積の差分MOちっちゃいところを最後の滑り量で2割ふやして、
0:51:36	調整をしていたっていうのが事実でございますね。それに対して今回私ども広域も共用品の同じ面積なのでそういう分析向上しておりますってを女川の考え方と合わせれば免責控除がないんだから、
0:51:53	割り増しもないっていうことで、やり方は女川に従っているというふうに実は認識してまして、ちょっとそのあとの設定のところ、モリモトからございます。
0:52:07	はい。今アマノから説明あった通りで調整、
0:52:11	前調整後と補正という言葉使い、ちょっとここの調整というのをナカガワに合わせている関係で少し読みづらいかと思うんですけどもおっしゃる通りで、
0:52:20	意味合いとしては違うものになってますんで、調整後面との調整ですね、滑り量の調整後のあったようにもついてパラメータ設定していますので、ただ、
0:52:33	面積が同じなので、さらに
0:52:37	面積が違うことによって、補正をしているところなんかも操作というのはやっていないということです。
0:52:45	はい、サグチですが、もうちょっと保安まだ私もちょっと確認しますが、
0:52:52	何か今の
0:52:54	もともとそうなんですけどね。今のをちょっと
0:52:58	御説明を聞くと、そうするとやっぱり、
0:53:02	この日本海溝モデル。
0:53:07	手法、手法ですけど、①止まる②③で結局面積変わらないんだから、そもそも滑り量の調整も必要ないんじゃないかなっていうふうにも、
0:53:16	受け取られちゃうんですけど、ちょっとそこは、
0:53:21	私もまだ完全に理解していないところかもしれませんが、ちょっとやっぱりそこはどういう関係にあるのか、もう少しわかりやすく説明をいただきたいとは思いますが、ちょっと今のこの
0:53:36	下、下の2行だけではなかなか理解する。
0:53:42	んの難しいかなと思いますけど。
0:53:46	ちょっとここは工夫して、もうちょっとわかりやすくしていただければと思います。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:53:51	はい、支部電力アマンでございます。ご確認いただいた事項よくわかりますので、私どもとしては女川の手法オリジナルを取り入れたという方に
0:54:04	御理解いただけるような表現を少し工夫して考えたいと思います。
0:54:12	はい、すいませんサグチですけど、よろしくお願ひします。ちょっと本店じゃなくて、この補足説明資料の方。
0:54:20	何点か確認をさせて、
0:54:24	ください。
0:54:32	ちょっと何て言うのか、今日、ざっと説明で、
0:54:38	これまでの変更箇所も含めて御説明あったかというところそういうわけじゃないんですけど、ちょっと気にな。
0:54:46	てるすごい細かいことで恐縮なんですけど。
0:54:49	362 ページで、
0:54:56	ちょっと高齢前回の会合から少し
0:55:01	記載方法というのかな、いろいろちょっと変えられていて、
0:55:06	で、陸域の小断層で廃炉の文字で記載して、
0:55:11	されてますけど。
0:55:14	ちなみにこの駿河湾の下から三つ目の 10.9 って書かれてるのってこれって、廃炉なんですか黒なんですかすみませんちょっとこれ確認だけなんですけど。
0:55:24	何か廃炉っぽく見えるんですけど。
0:55:33	はい。
0:55:35	はい、下と合わせて黒にしているつもりなのでちょっと確かに印刷なのかいろんなのか、
0:55:42	わかりにくいですので、少し確認させていただきます。
0:55:45	事実関係としては回帰に当たりますので、黒になるべきと思います。
0:55:51	昨日わかりましたこれ基本クローンせなのでちょっとここ同じような感じで 364 ページも多分これ 10.9 廃炉といふかなんていふがあるのでこれ単純に印刷の関係だけだったら全然問題ないんですけど、ちょっとそこは確認をしていただければと思います。
0:56:13	ごめんなさい。さっきちょっと本編のほうで、
0:56:18	言い忘れたのが 1 点は、
0:56:22	すみません、一体的たりして戻って申し訳ないんですけど、
0:56:29	さっきの
0:56:33	日本海今後出る。
0:56:36	どっちかの丸 2 か。
0:56:39	③の

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:40	どっちなんですけど、当然そのさっき滑り量を一倍っていう話あったと思うんです背景領域で 229 ページで、
0:56:50	129235 万 230 億円。
0:57:05	その後すぐ見つからないんですけど、これ確認をしていただければと思うんですけど。
0:57:12	どこかを滑り域で 3 倍で当然やっているモデルが
0:57:20	あるんですけど、230 ページ。
0:57:24	230 ページって。
0:57:27	今日滑り切って進めている 4 倍ですよ、中間をすべきところって 2 倍でしたっけ。
0:57:36	3 倍じゃなかったでした。はい、中部電力モリモトですと 230 ページの中段の中間を滑り域の平均水量 T さんの設定方法のところの記載。
0:57:48	だと思います。
0:57:50	ここには間違っております 3 倍ですので訂正させていただきます。ありがとうございます。わかりました。はい。
0:58:18	サグチすみませんまた細かいところで、まだ行ったり来たりして申し訳ないですけど、補足のほうで 625。
0:58:32	滑り量の設定で、平均応力降下量ってこれ 3 名が
0:58:37	3 メガでしたっけ。
0:58:48	これ、
0:58:50	中部電力、
0:58:53	中部電力カトウでございます。申し訳ございませんこちら 3.1 の木町書き間違えていますか、その前のやつが残っていてちょっと修正の範囲を忘れておりましたので、適切に適正化させていただきます。
0:59:05	先ほどから申して 3 メガじゃなくて、3.1 が正解ということよろしいですか。はい、わかりました。
0:59:27	サービスがあると
0:59:32	いいですか。先ほどちょっと本編のほうで申し上げたのでちょっと引用している文献で、やっぱりその
0:59:40	688 とかで、地震調査委員会がいっぱいあって、
0:59:46	で、当然その内閣府もいっぱいあるんですけど。
0:59:49	ここでは、
0:59:51	地震調査委員会 2020 っていうのはこの南海トラフの確率論的だけで、
1:00:00	いいんですしたっけ。
1:00:02	という

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:00:05	ちょっとそこは先ほどの
1:00:07	2019－日本海溝の長期評価なのかそれとも
1:00:11	2000 おんなじ 2025 でもありますよね。日本海溝云々とかそういうなかったでしたっけ、ちょっとちょっとソックスそこが本当に文献として大丈夫かなってというのはちょっとすいません、確認をしておいてください。
1:00:47	規制庁サグチすみません。私も確認できました日本海溝あくまでも 2019 です ね。
1:00:54	変塾であって、
1:00:55	地震調査委員会は、名確率論的で
1:01:01	ただ、内閣府 2020 年 12 月のごめんなさい、内閣府 2012 も多分いっぱいある ので、
1:01:08	どれを使っているか南海トラフと。
1:01:11	あと、
1:01:12	東北地方太平洋沖地震の津波断層モデルなんていうのも、
1:01:18	あって、ちょっと二つ南海トラフと東北と二つあるので 2012 っていうのは少なく とも書き分けていただければと。
1:01:28	思いますすみませんよろしくお願いします。
1:01:30	とりあえず私から以上ですけども。
1:01:36	中部電力の森で今おっしゃらサグチさんおっしゃられたのはイトウ東北沖の再 現モデルの断層のっているところについて、ということよろしかったですよ うか。
1:01:49	対策です。多分これって、
1:01:53	内閣府 2012 っていうだけ書かれていて、どうしても内閣 522012 という疑問 を我々イメージ的に南海トラフなどもモデルの話が載ってるあっちの
1:02:06	イメージしてしまうので、ちょっとそこなんかうまく書き分けていただければと思 います。
1:02:12	はい、わかりました。今さ、補足の 690 ページのところ内閣府 2012 が一番 頭のところにあるかと思えます。690 ページの一番上ですね、ここ一連で議論 して、
1:02:29	それ、南海トラフの最大クラスモデル検討するために一連にずっと議論されて いる資料引っ張っているんで、中間取りまとめから第一次報告第二次報告と、
1:02:38	あとはそこにあたって検討された
1:02:42	一番後ろのほうにあります東北地震の断層モデルについてというような検討 会の中の資料も含めて、2012 というふうにごちゃとまとめておりますので、少な くともちょっと東北沖のものについては切り分けをさせていただくということと、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	あまり第一次中間と第1報構台時刻でバラバラとするのも、わかりにくいかなというふうに思っております。
1:03:02	ので、南海トラフの最大クラスモデルの検討自体については内閣府2012というふうにまとめさせていただいて、この投光器の再現モデルに関するこの最後の検討についてはまた別にまとめさせていただくというような整理をさせていただきたいと思います。いかがでしょうか。
1:03:19	規制庁サグチです。とりあえずわかるようにしていただければ、その後は今御社で工夫していただければいいと思いますので、わかればこちらとしては、
1:03:30	結構です。承知いたしました。
1:03:48	すいません規制庁のミチグチですと1点だけ確認させていただきたいんですけど、本編資料の125ページの
1:03:57	下側に土木学会2016によるってところの特性化方法で、
1:04:03	今日すべきは3Dで15%を滑り域が1.4倍で40%ってあるんですけど、スギノほか2014でいくと。
1:04:12	今日滑りキーを設定した場合、4tは、
1:04:17	大体面積25%ってなると思うんですけど、これは、
1:04:21	その町を滑り域も取っても合わせて、
1:04:25	40%っていう意味なんですかね、何か左の図とか見ると1.4tとなる領域だけで、
1:04:32	44%と設定してるみたいに見えるんですけども、いかがでしょうか。
1:04:38	はい、中部電力モリモトです。累計というふうにしております。ちょっと上と下等々合わせるために面積は一応累計ということにしておりまして、超滑り域の中に聴最高滑り域の中には超滑り域を含むということで40%というふうに記載しております。
1:04:54	上野内閣府も同じでして、超滑り域20%の中には4倍滑り3倍するメーカーも含めてということで記載しております。
1:05:05	わかりました。ありがとうございます。
1:05:07	上野内閣府が例えば2dB以上の領域みたいに、
1:05:11	書いてあるんで含まれるのかなってちょっと思ったんですけど、下の方とちょっと
1:05:17	書き方が、
1:05:19	ちょっとその辺は誇張していただけると。はい、一部でまずアマノでございますはい適正化させていただきます。ありがとうございます。
1:05:49	はい。
1:05:51	はい。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:05:52	タニです。ちょっとこれ教えてくださいという話かもしれないですけど、28 ページに、
1:06:01	最後津波インバージョンモデルの小断層よりも小さい不均質通話断層滑りの分布空間分布においてほとんど存在しないというふうなことを勘案国会てるんですけど、これ浜岡の場合だったら、
1:06:15	小断層のメッシュがまず幾つなんでしょう。
1:06:20	今の検討っていうのは、
1:06:24	はい、中部電力モリモトです。
1:06:29	はい。
1:06:30	滑り量分布の設定等で使ってるメッシュ自体は 20kg 掛ける 20km のメッシュになっております。
1:06:36	。
1:06:37	ありがとうございます。だから津波のこの話を浜岡に当てはめると 20kg 掛ける 20km よりも小さい不均質は
1:06:48	断層滑りの空間分婉を置いてほとんど損存在しないと推定されるともにっていうふうに呼んだらいいんですか初期水位にあるおれないと。
1:07:03	はい、中部電力の森です。こちら不均一性の影響ということで、津浪どこまで小さい不均質が地震の中にあるのかということを整理しておりますので、基本的にその M8 クラスの地震、
1:07:20	なんかでこういう左側のパワースペクトルみたいな書いていきますと、
1:07:25	端数が大きくなるようはこのグラフで右に行くと、小さい波長が小さくなるほどスペクトルで落ちていくというのが普通の地震でございます、M9 クラスの地震で分析してみても同じように波長が短い成分っていうのは波源の中にはあんまりないと。
1:07:43	というようなことを検討した論文でございます。見方としては、
1:07:50	フィッティングをして
1:07:53	おりますので、青色と緑色で書いたような書かれているようなスペクトルの近似曲線みたいな見ていただくと、ずっと右坂田下がりになっていくということで、基本的にその波源の中にあまり細かい不均一滑りの不均質っていうのはないと。
1:08:09	というようなことが言われているというようなものなんですって、実際のその津波断層モデル作るのかということとはちょっと別で波源として、
1:08:21	あまり小さい不均質っていうのはなさそうだということ論文として示したのになります。
1:08:27	以上です。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:08:29	タニです。うん。ちょっと聞いたかったのが、それはメッシュによるものっていうことなんですか、そんなこともないですか。
1:08:42	はい、中部電力モリモトですか。メッシュによるというところで見させていただきますと、こちらのグラフだと例えば黒い色だとか、赤色の線っていうのは、左側のS atakeのメッシュからそのまま出してきた
1:08:59	パワースペクトルになりまして、結構途中でがくんと落ちているところはメッシュに依存して落ちているということ、というふうに理解してますので、一般的なその地震の震源、震源スペクトルとしての近似曲線なんかよく用いられているので、
1:09:15	それを使って近似したのがこの青と緑の線だということですので、
1:09:20	当然近似曲線で耕種こう端数西武でもしていけないんですけどもそれでも右肩下がりと傾向っていうのは見ているということで、それを思うと、あまり小さいところについてはスペクトルとして小さいんじゃないかということが言われているという論文でございます。
1:09:37	ありがとうございました。
1:10:34	。
1:10:35	規制庁スギノですけど。
1:10:38	質問っていうか、
1:10:41	教えていただきたいんですけど、4 ページ。
1:10:45	お願いします。
1:10:52	今回、右下のほうに検討波源モデルの妥当性確認っていうので。
1:11:00	土木学会 2016 モデルっていうのが、
1:11:03	引き合いに出されたっていうことだと思うんですけど、これ今回が
1:11:10	今回の資料の中で初めて持ち出されたものっていうことですよ。
1:11:16	これはどうしてこのタイミングでこれが出てくるのかっていう何か理由みたいなものがあつたら、まず教えていただきたいなと。
1:11:28	電力アマノでございます。
1:11:31	もともと左側の検討波源モデルCで土木学会に基づいて作ってはあったんですけども、前々回の審査会合の中でサグチさんが複数の検証されたモデルで、
1:11:46	比較し妥当性を評価しなさいというコメントをいただいております、やっぱり、あまり検討波源モデルっていうのは、当社モデルですので当時の趣旨を考えると、やはりオリジナルで比較することであろうと。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:12:02	いう観点で今回、一番最後のステージで内閣府とあわせ土木学会のオリジナルのもので入れさせていただいたと、日本海溝も私どもとしてはオリジナルを南海トラフに当てはめたということで、
1:12:18	当社のあまり考えは入れていないものと比較するってことで今回入れさせていただいたという経緯でございます。
1:12:26	はい、わかりました。
1:12:28	その上でというか、
1:12:32	そうすると、
1:12:34	検討波源モデルCというのが、
1:12:38	土木学会 2016 で特性化したっていう説明になってくるので。
1:12:47	何か。
1:12:49	違いが、
1:12:51	この土木学会 2016 に基づいて、両方とも今そういうものになる。
1:12:58	計ですよ。
1:13:00	それで、
1:13:01	どこが違うのかっていうところを何点か端的に説明いただけないでしょうか。
1:13:12	よくアマノでございます 223 ページをご覧くださいなんですが、
1:13:22	土木学会のモデルは、この幅広起因ですけど、超滑り域を進める域を一つのパッケージで貼りつけて評価をしているというものになるんで。
1:13:36	今回オリジナルとして採用させていただいたのが一番、浜岡に影響が大きいと想定されます東側モデルなんですけど、検討波源モデルし、これだとですね、要は、四国沖の方とかの再現性を当面少し落ちると一方で検討波源モデルCはとこ、
1:13:54	広域をすべて再現するためにこれを滑り二つに分割してやっていますんで、それが違うということで、1 個か事故かかって言うところの違いでやっぱりオリジナルは実行だったので、今回はこちらでも追加させていただいたということです。
1:14:14	はい、わかりました。ありがとうございます。
1:14:25	規制庁サグチです。ちょっと今 223 ページが出たので、あくまでもこれは確認だけなんですけど 222 ページとかで、
1:14:36	内閣府モデルっていうのはいろいろ
1:14:39	御社も実際にその数値シミュレーションなんかをやって、そういう通知としても出ているのでわかるんですけども、
1:14:48	これ 223 ページの土木学会って何か土木学会の中でも少なくともその浜岡周辺例、何メートルぐらいになるって今ここ書かれてるのはあくまでもこのこの範

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	囲の中の、しかもこの滑り量だけであって、津波の高さってどれぐらいになるかって、
1:15:04	多分出てないんですけど。
1:15:07	これ何か数値的に、例えば浜岡付近で例えば西側モデルだったら何メーターなどの基本断層の予定んなメーターなのか東側もであったらメタンなるのかって、例えば数値とかで何か出てたりします。
1:15:24	中部電力モリモトです。土木学会の中で数値浜岡の数値っていうのは出ておりません。ただ西側、東側が大きくて他小さいのかなというのは見て
1:15:36	判断しているというところです。
1:15:39	はい、サグチさんも何か感覚的には何か東側モデルが一番大きそうだなというのはわかるんですけどもし何かその儲けピンポイントじゃなくても、例えば思いだけで何名だとかそういうのが、例えば、参考としてあるんだったら、数値として何か出していただけると。
1:15:56	より
1:15:58	敷地への影響が大きいと考えられるっていう部分がちゃんと説明できるのかなと思いますので、なければ別に結構ですけどもし何か目安としてそういうものがあれば、ちょっと出していただければなと思います。
1:16:12	はい、中部電力モリモトですありがとうございます。補足のほうの土木学会モデルのほうに少し記載しております。
1:16:20	約 14 ページ。
1:16:22	お願いいたします。
1:16:30	これじゃないか。ごめんなさい。これ包絡ですね、ちょっとあまりよくないですね。
1:16:37	すみません、この 614 ページには包絡値ということで、
1:16:42	西側モデルと基本ですので東側モデル校包絡で今ちょっと線引かれているんですけども、これとは別にちょっとピンポイントという御前崎ピンポイントとかっていうのはないんですけども、このモデルでどこが大きいかというのが見える図はどこかに載ってますので、少しそれを掲載させていただく。
1:16:59	ということをさせていただきたいと思います。以上です。
1:17:03	昨日わかりましたそういうのがあるというんだったらなんか載せていただけると思いますのでよろしくお願いします。
1:18:53	規制庁サグチですけれども、今日 2 件あるということで、今まだ、
1:18:59	津浪評価みて、もしですね、なんか、
1:19:04	もうちょっとこう、
1:19:06	質問とかあればですねちょっと最後に、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:19:12	またそういう時間があれば設けたいと思いますので、引き続きちょっと歴史記録で津波堆積物に関する調査ですね、こっちの方。
1:19:22	御説明いただければと思いますので、よろしくお願いします。
1:19:26	はい、中部電力は学んでございます。それでは続きまして、11月15日に実施させていただきましたH記録及び津波堆積物に関する調査についてのヒアリングでご確認いただいてちょっと我々のほうでよりわかりやすく、
1:19:44	ということで資料を適正化して参りましたので御説明させていただきたいと思っております。ちょっとご説明はもうええと数分で終わります。よろしくお願いいたします。
1:19:57	中部電力ニシムラです。
1:19:59	歴史記録及び津波堆積物に関する調査について前回ヒアリングからの修正点を御説明いたします。
1:20:07	本編資料 22 ページをお願いいたします。
1:20:12	前回ヒアリングで放射性炭素年代の測定箇所について確認がありましたので、下の箱書き
1:20:18	2 調査、評価方法の試料分析に 2 ポツ目で、
1:20:22	放射性炭素年代測定の測定箇所の選定の考え方を追記しております。
1:20:29	続きまして 27 ページをお願いいたします。
1:20:39	右下の記号の凡例のうち、注入の記載を適正化しております。
1:20:45	またこちらに関連して、注入と判断した地層の 6 の⑤というところの個別評価についても記載の適正化を行っております。
1:20:55	資料変わりました補足説明資料 84 ページをお願いします。
1:21:15	表の一番下になります。6-05 注入として判断理由が具体的にできるように記載を適正化しております。
1:21:23	同じく補足説明資料 57 ページをお願いいたします。
1:21:31	イベント堆積物の認定にあたって柱状図だけで判断しているわけではないということがわかるように、下の箱書き※1 のイベント堆積物の評価方法の記載を適正化してしております。
1:21:47	63 ページをお願いいたします。
1:21:55	イベント堆積物と評価した地層とイベント堆積物ではないと評価した地層について、それは相双の違いと、イベント堆積物に係る認定根拠が、1 ページで確認できるページ構成といたしました。
1:22:09	黒の二つで岩内層の総層の特徴を記載して、それらの違いがわかるようにしております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:22:17	また、前回は経産道の特徴として、水平層理という言葉を使用しておりましたが、一般的な制限層理とは少し異なるため、水平な構造という言葉に変え表現を適正化しております。
1:22:30	64 ページはコア写真とかスケッチの解像度を合わせて並べております。
1:22:36	76 ページをお願いします。
1:22:42	こちら敷地西側も既許可と同様に構成を見直しております、前回の資料では泥岩歴の大きさと形状のみにより、岩内層を区別しているように見えてしまっていたため、マトリックスなども踏まえて判断していることがわかるように適正化しております。
1:22:59	同様に敷地東側も構成を見直しております。当社の説明は以上です。
1:23:09	規制庁サグチです。御説明ありがとうございました。
1:23:13	では、
1:23:15	ちょっとですねごめんなさい今の説明で、ここを変更しましたっていう説明がかなり多くて、
1:23:25	ちょっとどこをどう変えたかっていうご説明があるところがあったんだけど、ないところなかったんで、もうちょっとごめんなさい。どこをどういうふうに変えた特に本編のほう、本店のほうにヶ所ぐらい。
1:23:41	あったと思うんですけども、もう 1 回ちょっとごめんなさい説明していただいてよろしいですか。中部電力ニシムラです。失礼いたしました。
1:23:49	少しちょっと具体的に御説明させていただきます。本編資料の 22 ページをお願いします。
1:23:57	こちら放射性炭素年代測定に測定箇所を選定の考え方について追記したというところになりますので、それが過小は下の箱書きの試料分析のところがございますの 2 ポツ目に記載しております。
1:24:12	こちら、
1:24:14	放射性炭素年代測定はイベント堆積物の年代を特定することを目的として、イベント堆積物の上下の腐食地層や植物編木片を対象に行っております。またイベント堆積物のいかが延長上の地層が、
1:24:30	イベント堆積物と同層準であることの確認を目的として、
1:24:34	年代測定も実施したことを追記してございます。
1:24:38	こちらのポツ自体を追加しております。
1:24:41	はい、点目が全員になります。
1:24:44	続きまして 27 ページをお願いいたします。
1:24:52	こちら前回サグチさんより確認があったところになります。記号の凡例で極限の欄のところに注入というございます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:25:03	こちら注入ってというのはどういうもので判断したのかっていうところをまあ少し言葉が足りないので、また諸Cというところがありますので、
1:25:14	途中の横の一番右の欄を見ていただくと堆積層の上限の境界目に火炎状の乱れがあると、この火炎状という言葉は足して少し具体的にさせていただきます。
1:25:25	本編の説明は以上です。
1:25:31	はい、規制庁サクセスアマン改めてご説明ありがとうございましたとちょっと規制庁側から特に確認する事項あれば、
1:25:40	よろしくお願いします。
1:25:55	カイダです。修正追記等ありがとうございましたねえと、改めてちょっと確認なんですけれども、
1:26:05	補足のほうの 89 ページで、
1:26:11	今ほど御説明はなかったんですけど、
1:26:16	なおってというのはこれ今回追加された記載ですか。ちょっと確認なんですけれどもちっちゃい字で下の
1:26:24	タニなお 20 日はってというのは、これ前からあったにした新聞力のニシムラです。こちらのなお書きにつきましては今回追加させていただいておりますと今回説明常時省略をさせていただきましたが、この意味については、
1:26:40	前回、この地層を 12-1 というのが下部と上部で分けられるのかどうなのかといった確認がございました。で、
1:26:50	今回ですねこちらの地層は基盤から責務として封水砂層に変遷していく地層になります。
1:26:57	その中で譲渡下部については渚野なおになお書きに書いておりましたが、明瞭な地層境界が認められないということもあるため一連の地層として考えております。なので基盤があって、そこからシルトがたまり始めて、
1:27:15	所々基盤が崩れマターになるので基盤が崩れがあって最終的には、
1:27:20	郵政砂層変遷していくと、そういったシルト主体として、
1:27:24	株では利益がちょっと入ってきて、
1:27:27	上部では府政策がどんどんどんどん入ってきて、最終的には不精査になるというような地層と考えてございます。
1:27:37	はい、カイダです。わかりましたの観察、そういった観察
1:27:42	これもされたっていうことをわかりました。
1:27:45	ちょっとですねその辺の記載が今回あれですね柱状図の記載だけじゃなくて改めて観察した結果も踏まえてってということなんですけども。
1:27:57	その前のページを見ると 88 ページで
1:28:02	肢体柱状図機器ってこのを見ると、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:28:05	ちゃんとしんどかって断落としされてるところは、
1:28:11	多分中の細かいとこだと思うんですけど、壇落としされてない左端にそろえてあるところは、地層区分だと思って見てみると、
1:28:21	15.75 から 16.0 に走ると、
1:28:25	その次は 4 日までは還暦シルト質砂でそんときには、
1:28:31	54 まで砂礫っていうふうに今一つの層にされているところは三つの層に分かれるっていうふうにもともとは、
1:28:40	記載されて
1:28:43	そうにも見えなくもないので、
1:28:47	ちょっとその辺のところと、前回は多分ちょっとそういったことも、ここまで詳しくは申し上げなかったかもしんですけど。
1:28:57	ちょっとすみません。
1:28:58	そういう分けてあるのに今回一緒になってるっていうところが
1:29:03	わからないし、その前のページとかにいろいろな事象の認定したやつを見ると、大体はこの深度に記事の深度に合わせたものが左側の欄の上端下端深度なりと一致してる。
1:29:20	ですね。だからさっきのなお書きも一言で書くんじゃなくて、もうちょっとちゃんとその辺ところは書いていただきたいなと思います。
1:29:30	っていうのは系統 89 ページに戻っていただいて、
1:29:36	下の
1:29:38	壇のタバコがこう分かれてる人の部分は除いて、
1:29:43	その左側の部分だけ上と下を見ると、
1:29:46	これって
1:29:48	見た目だけになっちゃうんですけど
1:29:52	なんかもうそっくりに見えてしまうということで、その辺の違いを今説明されてると思うんですけども。
1:30:00	歴が入ってる入ってないというのはこの右側の部分だけでこの違いはここだけをとってみると、見るようにも見えちゃうのでちょっとその辺を一緒にするのはどうかというところで分けられるのはちゃんと
1:30:16	しっかり書いてもらいたいと一緒にすると一緒に地層だっていうんだったら、このなおが規定の記載だけじゃなくてちゃんと書いていただきたいなと思います。
1:30:26	歴の点は置いといて、
1:30:30	この違いが何かっていうと、道路や腐食層の

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:30:35	利益があるかないかというところが見たところ、大きい違いで認定する、利益もフレキの点置いといて、それ以外だとこの履歴の話が出てくるので。
1:30:48	せっかく
1:30:50	今、改めて観察してそういう違いがあるっていうのであれば、今ちょっとこれ、
1:30:57	コア写真自体ちょっと大きくしていただいたんですけど、履歴って書いてあるのが、
1:31:03	通りですから、青いので囲ってるやつで、上と下でちょっと
1:31:08	わからないので、
1:31:11	その辺の大きな写真とかは、
1:31:14	今今回しか確認された点であれば、
1:31:19	その部分。
1:31:21	もう少し拡大したもののというのがつけられるかなと思うので、その辺のところ、資料に充実化していただきたいなと思うんですけども、
1:31:32	可能でしょうか。
1:31:37	中部電力ニシムラでございます。今確認のありました12の頂部の部分についてですが、おっしゃった通り、
1:31:46	そのイベントと比べると腐植層とどの着歴が認められないといったところが大きなポイントとなっておりますが、単純にシルトから伏せ再編成してるところということです。
1:32:01	拡大写真のほうは、次回ご準備させていただいてよりこちらの違いがわかるような資料を準備させていただきます。
1:32:11	はい、カイダですわかりましたじゃさっきのなお書きの点の含めて、よろしく願います。
1:32:20	以上です。
1:32:21	すいません中部電力の森です。少し青とか赤とかのは、囲っているか見にくいかなというのもあるかと思しますのでちょっとその辺りも含めて、
1:32:33	見やすいように適正化させていただければと思います。以上です。
1:32:37	はい、わかりました。願います。ここは事態を大きくしていただいたんですけど、どうしてもさらにその中の青とか赤の部分というのはもっともっちゅやいんで。
1:32:46	これで何かって言うとなかなか読み取れないので間違いがあるっていうところの説明をもう少しわかりやすく、願います。
1:33:22	規制庁カイダです。ニシキさん何かありますか。
1:33:28	規制庁ニシキです。私のほうからはですね前回のヒアリングでコメントさせていただくところを追記いただけたので。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:33:40	いかなというところがありますがちょっと一つ確認をしたいところがありまして、今回、補足説明資料の中で、それぞれのコアの性状一覧表っていうのを書いて、
1:33:56	づらかつテーマ一部
1:34:00	あその一番右側のところの評価っていう所決起採用微妙に修正されてるかと思うんですけども具体的には赤で赤ハッチつけるところと、まああの、中部電力のほうで評価するということ。
1:34:17	今回イベント堆積物と評価したとかそういう表現ぶりに書き直されているところがあるんですけども、それはそれでいいんですが資料の再掲となっているにもかかわらず、それがするから下に修正されてるところがあるので、
1:34:35	何か一部修正と明記されているところと、再掲で待っているとがあるので、その辺資料直されているのであれば、多分一部修正になるかと思しますので、その辺少し、
1:34:48	例えば 84 ページ 5 ページ、補足説明資料ですけども、85 ページの方なども一部修正となっているんですけども 84 ページが今しがた説明があったように追記もされているところですけど。
1:35:03	第三紀から見ると、
1:35:06	108 回の再掲となっているので、ちょっとこの辺り、
1:35:10	修正が加わっているはずなので、
1:35:13	というところですよ。
1:35:15	あと、もうちょっとⅡは今しがたカイダのほうから話があった通り
1:35:22	容疑ですね私のほうはは次回は過信見やすくなって非常に行ったと思うんですけども、さらに見ようと思ってなかなかちょっと見づらいなってるとかありましたので、その辺私の方からもぜひちょっと見やすさの観点でちょっと資料を
1:35:39	転籍いただければと思います。私のほうからは以上です。
1:35:43	中部電力ニシムラです。右の上の肩書きの方をちょっと修正が漏れてございまして大変失礼いたしました。
1:35:52	変えたところとしては評価するからその消火したと。
1:35:58	そういう
1:35:59	ゴミの修正だったんですけどもちょっと修正のほうはされておりました。
1:36:06	ちょっと確認して反映させていただきたいと思います。
1:36:20	中部電力アマノでございます今の説明を補足は評価のところは今までとするとか評価するとかですね評価したっていうのがちょっと混在していて、おわかりにくいなということで評価したという結果として、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:36:38	修正させていただきましたので、一部修正と直すべきところが漏れていたということになります評価自体を変えたというものでございません。
1:36:51	はい。
1:38:00	規制庁昨日
1:38:03	引き続き、
1:38:05	歴史記録、記録及び津浪堆積物に関する調査についてはもう確認で規制庁からあれば、ちょっと
1:38:16	時間がまだもう少しありますので、
1:38:20	こちらに限らず、最初のプレート間地震の津波評価についても、
1:38:26	ちょっと確認し忘れたとか、もうちょっと確認したいっていうのがあればですね。
1:38:32	残りの時間を利用して確認をしていただければと思いますけど。
1:38:44	ついでといっちゃうんですけども、別途補足の 89 ページですね。
1:38:52	細かなことなんですけど
1:38:57	先ほどの 88 ページと 89 ページのピンクで囲った記載のとか評価では履歴ときちんと書いてあるんですけども。
1:39:06	左側のコアの要項の説明は終わり気象に含むと
1:39:11	ちょっと、
1:39:13	ちょっと目に、
1:39:15	歴と、
1:39:17	支社履歴が混在してるようで、これはもう
1:39:22	この文章をちょっとよく読むと、ちょっと日本語が変なので、この辺の
1:39:29	交渉の体裁の再検討等歴じゃなくても下がり切ってもきちんと記載されてしていただかないと。
1:39:37	国会を招くと思いますのでその辺、お願いします。以上です。
1:39:49	中部電力ニシムラです。
1:39:52	奥へと確認しまして修正を記載のほうを適正化させていただきます。すいません。ちなみに具体的に
1:40:02	もう一度教えていただいてもよろしいでしょうか。例えばですね左側の
1:40:10	項の横の記載なんか腐植層陸上に付す含むことから、上流の道路や腐食層陸上に時劇場にまじりながら日本語ではないですね。
1:40:26	そういうことです。
1:40:29	中部電力ニシムラですちょっといたしましたありがとうございます。
1:41:35	すいません規制庁のミチグチです。
1:41:38	すいません、前も伺ったんですけど計装とかの微化石分析について、
1:41:45	多くのところで

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:41:48	そして、
1:41:50	だからそう。
1:41:51	含まれるから、あまり用いられてないってところがあると思うんですけど、22 ページのところ、一部、一部資料においてって書いてあるんですけど。
1:42:02	分析として用いられて、
1:42:05	その判定ができるっていう資料もあったりするんでしょうか。
1:42:15	はい、中部電力のヒサマツです。相良層というか改正のものにつきましてはほとんど相良層のものでして、さらにそのものをなくすとも数が 1 桁というか、ほとんどなくなってしまうので、
1:42:34	体制かどうかって判断は非常に難しいのかなということで、今回は使用していません。以上です。
1:42:42	ありがとうございます。ポーリング調査されている場所すべてにおいてそういう状況ってということでよろしいですか。
1:42:50	はい、基本的にはそういう現世の出頭相良層の市がどうも変わらないというか、ほとんど同じ似たような種が入ってたということ。
1:43:01	でして、その差がなかなかでつけられなかったということになってですね。はい。以上です。
1:43:11	わかりました。ありがとうございます。
1:46:42	規制庁タニです。
1:46:43	今回まぜ前回はその 17 ページから海溝軸から陸域までの距離がこれじゃないと不均質性の影響っていうのを検討していただいているんですけど。
1:46:57	これは
1:47:00	日本海溝の話で説明してるんじゃないですか。これ例えば南海トラフで
1:47:07	説明せずに、これ何で日本海溝での説明なのかとかその辺ちょっと教えてもらっていいですか。
1:47:19	はい、中部電力モリモトですか。
1:47:22	うん。
1:47:24	その検討概要のところにも記載をしておりますけれども東北沖地震で実際に不均質が観測された事例として
1:47:33	日本海溝の事例しかないものですから、まずはそれを分析しているの影響があるのかというところを検討しておりますので、数値解析的にやることももちろんできるんですけどそもそも設計をどうするのかとか、どういうふうによればいいのかっていうのはちょっと難しいので、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:47:48	そういうあたりも含めて、今回その不均質の影響ということで内閣まで取り込むということをやった上で分析としては、実例をもとに検討させていただいたということです。以上です。
1:48:03	はい。あれですね聞いたかったのはまさにする設定が難しいことっていうので
1:48:10	数値計算をやろうと思ったらできるけどっていうところなんですね。
1:48:18	こちらの数値解析ですので、どのような設定をするか次第かと思えますんで、事例が少ない。先ほど天野も申し上げました事例が少ない中でちょっとどこまで設定を考えるのかという付近性の影響というのはどこまでモデルに組み込むのかという議論
1:48:34	が難しいなというところもありまして、まずは実例を分析するというステップを踏んだ上で、事例が少ないというところを踏まえて、内閣府の滑りどライズタイムも考慮することにしたというふうに当社として判断いたしました。
1:48:51	はい、考えはわかりました。ありがとうございます。
1:50:38	規制庁サグチですけども、私もちょっとごめんなさい。津波評価のほうに戻りますけれども、
1:50:46	2 ページなんですけどちょっとごめんなさい、大きなところ聞くの忘れてたので、確認なんですけど、
1:50:54	今回妥当性確認でいろんな特に以降南海トラフで
1:51:02	以上が内郭 2012 ですよね、取り入れられましたけど、
1:51:06	この 2 ページのフローでいう行政機関による津波評価。
1:51:10	(2)でありますけど、これってどういう、個々の位置付け、
1:51:16	になるんですかね、何かある意味、
1:51:19	行政機関でも内閣府依頼も不PIはここでやるのか。
1:51:24	それともその内閣府はもっかい、もっかいここに登場するのか、それとも、一番左のプレート間地震の津波評価の中に、
1:51:32	入っていくのかちょっとその辺りを教えてもらっていいですか。
1:51:36	はい、中部電力アmanoでございますが、こちらにつきましては今まで御説明させていただいた通り、内閣府モデルだけでなく、当然静岡県だとか、愛知県だとか神奈川県みたいなのも、御説明済みなんですけど、そういったものも含めて、
1:51:54	ガイドに従って、
1:51:57	その行政機関がどういうことやってるかというところで参照してございますのでこの位置にいるという形になりますので、結論的に内閣府も我々の内数に入りましたので、プレート間地震は層厚上回るの、当然かつ

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:52:14	決まって一応最後記述並みの断面で比較するときの塔上部人物としては残っていくのかなというふうに考えてございます。
1:52:25	はい、わかりましたなので、その内閣府以外も含めて、ごめんなさい、内閣府も含めて、とにかく内閣府以外のものも当然あるのでここでは、あくまでも行政機関による津波評価というもので最終的に
1:52:40	基準値の津波算定のときに比較検討なりをするということでわかりました。ありがとうございます。
1:53:35	規制庁サグチですけれども、そろそろ時間も
1:53:42	概ね 2 時間ぐらいになりますので、特段、もう規制庁から。
1:53:47	なければ、ぜひこれは今の人事と。
1:53:53	ナイトウですけれども、えっとね、結局滑り量の設定が例えばね、130 ページだったら痕跡債権モデルは約 9m を滑り量を設定しました。
1:54:11	例検討波源モデル 37m ですって滑りの設定の幾つにしましたっていうのが入ってはあるんだけど、じゃあこれをパラメータ表を見たときにどこに書いてありますかって言うと、
1:54:27	どこにも書いてないようなんだけど、これって書いてあります。
1:54:40	中部電力の加藤でございます。補足説明資料のほうにこちら 9m ですか 37 m の根拠がございまして、
1:54:53	。
1:54:56	362 ページをお願いいたします。
1:55:07	こちら 6 ー ー 章の検討波源モデルのパラメータのほうの説明なんですけども、362 ページで言いますと、検討波源モデル A の分析ということで、遠州灘付近の滑り域のところの平均超滑り域の平均滑り量ということで、
1:55:23	左左上の表ですね、長を滑り平均 36.8m ということで、こちら 37m の根拠を示してございます。
1:55:32	その次の 363 ページなんですけれども、こちら、
1:55:38	タイトルは検討波源モデル A と書きながらも中身見ますと、遠州灘沿岸域の功績再現モデルの滑り量の根拠を記載してございます。まして、こちら超滑り域ございませんで、滑り域のみになってきますけども、同じく左上の表をご覧くださいと滑り域の平均で
1:55:56	8.7m ということで、四捨五入して 9m ということで、ちょっと本体資料の 130 ページの滑り量のコンペというのが 1 と補足資料のほうには記載してございます。以上です。
1:56:10	はい。
1:56:16	回答ですけれども、補足に書いてあるのね。わかりました。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:56:23	考え方だけ教えて欲しいんですけども皆さんが今回滑りをもう 3Aと大きくちゃん取りますと、あと、dライズタイムのほうはパラメータ表に入ってんだけど、滑り量をこれを取ったっていう根拠が補足に落としているようなんですか。
1:56:49	はい、中部電力の森です。滑り量設定自体は、南海トラフでは 103、
1:56:56	コメント回答資料の 135 ページが、
1:56:59	例えば検討波源モデルへの具体的な滑り量の設定結果になってまして設定の方向についてはその前のページに増えておりますので、具体的な設定としてこのような
1:57:13	設置 135 ページの設定にしているんですけども、これは端的に何mっていうのが少し難しいので平均値としてパラメータ表には、定検時最大値としては先ほどの表で載せているとその平均値の根拠としては、補足のほうに説明させていただいているという。
1:57:30	紐づけにさせていただいております。
1:57:40	うん。
1:57:42	ナイトウですけども、意欲、よくわからないんだけど、皆さんは入ってるね規格化した滑り量とライズタイムの関係とかっていう形で 37mとか 39 名とかという使っているんだけど、それを補足に行かないとわからないっていう構成にしているのは、
1:57:59	何か理由があるんですかってのを確認したいんですけど。
1:58:08	中部電力アマンでございます。おっしゃる通りで、友利が説明したように、135 ロッカー136 で生値としては、滑り量の分布、或いはパラメーターっていうのはお示しさせていただいてるんですけど。
1:58:23	カトウほかで分析するときには確かにこれではできていないところがあるので、先ほど加藤から御説明させていただいたような 9 メーターだとか、37 メーターというのは、
1:58:36	評価の中でしっかり使っているということで、ちょっと補足のほうからピックアップしてきて、これも一つの根拠であるっていうところをわかるように、本資料のほうに入れ込みたいと思います。
1:58:58	ナイトウですけど、確認ですけども、結局投影等、滑り量分布を考えた上で調査をする滑り域をすべき平均滑り量を出していったって、それぞれそれに基づいて実際の波の高さの計算はやっているんだけど、
1:59:16	それが妥当かどうかっていうことに関しては町を不備機能平均の滑り量で
1:59:23	十分な不確かさを振っているというふうな説明をされているというそういう理解でよろしいですか。
1:59:36	はい、整理としては長石が平均滑りをカトウ他整理しております。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:59:45	規制庁の女性のカトウほかそうなっていてそれを使っているということは、中部電力の説明としては、これを共用を滑り機能平均の滑り量をきちんと
2:00:01	さらなる不確かさという形で再交付っていうんだけどという形に十分な不確かさを振っているという説明でいいんですよねってこの確認だけです。
2:00:14	よくアマノでございます。おっしゃる通りで、さらなる不確かさというのは、結局、
2:00:20	内閣府の最大クラスということで最大の最大をやっているものは、滑り量と債務の関係が津浪一番影響が大きいというものを採用してますので、それ量等ライズタイムともに、
2:00:37	最大の影響を考慮したということで御説明をさせていただいております。
2:00:45	説明の
2:00:48	労使としてはわかいう
2:00:51	どうぞ。
2:00:52	日当直今回話なんだけど。
2:00:56	これに皆さんの説明しようって、目次を見ると、
2:01:01	何省という構成になっていて、ページ番号をそこしか降ってない構成になった。
2:01:08	るんですよ。
2:01:14	フリーとか、
2:01:18	辞め例えばA系、検討波源モデルの津波設定っていう形で行って 14 ページにあるけど、検討波源の設定が 160 の検討波源モデルのパラメータスタディが 160。
2:01:30	ページとなってんだけど、実はこれそれぞれのところで、特にあるのが検討波源のパラメータスタディの内訳としては、さらに
2:01:42	詳細パラメータスタディの検討等、
2:01:48	何点だ単なる不確かさの検討。
2:01:52	とか項目分かれているんだけど、
2:01:58	これってどっかにちゃんとページ増えませんか。
2:02:03	中部電力アマノです。承知いたしました。すいません言い訳をさせていただきますと、ここの章立てを細分化すればするほどのページに記載の間違いが出ちゃうってフェイルセーフで大きくて御説明させていただいておるんですが、
2:02:20	特に重要なここは分けておいたほうが見やすいと思いますので。
2:02:27	小項目立てを入れさせていただきます。
2:02:33	はい注い 5 回も資料の段階できちんとやってもらえばいいんですけども、少なくとも概略パラメータスタディ詳細パラメータスタディの不確かさって三つの

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	段階踏んでいってそれぞれパラメーターを振ってんのっての比較で見ようとするときに、さて何ページみたいになっていう世界になっちゃっているので、
2:02:51	ちょっとそこは工夫をしていただければと思います。はい、中部電力アマンでございます。承知いたしました。
2:03:12	ナイトウですと、これも記載の話なんで 40 ページのところ、当社による検討ということで全体をまとめてあるんだけど、この(エ)の各パラメーター網羅的検討による方法による結果というのが、
2:03:28	これが後ろと表題が違ってんだけども、これはさらなる不確かさの考慮した結果のものを書いてるってということですか。
2:03:40	はい。こちらは前回説明をここで説明しておりますその一連の中での説明になります。
2:03:47	はい。
2:03:50	この症自体は－30 ページから始まっておりまして、どういうふうにとプレート間地震の津波評価今回のコメント回答を反映するかという中で、まず前回の説明の振り返りということで、31 ページから 40 ページ載せておりますので、
2:04:07	前回のスライドの再掲という形で前回このような説明をしておりますということを掲載させていただいておるものです。
2:04:16	中小ナリタ過ぎで逆に言うとこれ前回のって、これを今回のバージョンで退避をするとどうなってるかってのは、特に作っていない。
2:04:24	ですかね。
2:04:34	完全に同じようなんですけど、今回のという内閣府の被告今回のということであれば－48 ページで、
2:04:43	反映結果として最大クラスモデルと比較した場合にどうなってるかというの掲載しております。左側の内閣府の最大クラスモデルのパラメータ設定に対して、歩行者の網羅的に検討への方法による検討の津波評価では
2:05:00	赤字のところをさらに内閣府モデルにプラスして、不確かさとして考慮しているというものを見える化しております。
2:05:13	規制庁ナイトウですけども、これもね、ちょっと見やすさの観点から前回こういう説明してたんだけど、コメントを踏まえて検討を再検討した結果としてこういうふうになり興奮なってますって言って、どこが変わったのってというのが一番わかるようなものって何かつけられません。
2:05:35	逆に言うと 40 ページがあつてです検討した結果、こういうふうにしますってさっき言ったようなものがあつて、その結果として今回のやつをこういう考え方で中部電力としての考え方が整理されてます。
2:05:52	というのが、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:05:53	あると。
2:05:55	コメントを踏まえて、全体としてどこがどう変わったのかってのがすごくわかるんですけど。
2:06:03	はい、今回反映前回今回の比較という意味でちょっとパラメータではないんだけど 42 ページに
2:06:12	左側の前回会合での津浪評価としての説明と今回どういうふうな説明をするのかという説明構成のロジックについてはこのように左と右で整理させていただいておりますので、内閣府のパラメータ自体も、さらなる不確かさとして、当社の
2:06:29	の方法で検討しているパラメータスタディの中で、これすることにしたというのを整理させていただきましたので、前回今回のパラメータがどう変わったかというのについては別途、この次のページ等で何か追加させていただきたいと思います。
2:06:46	中部電力アmanoでございます。今江藤のナイトウ参加をご確認ありました 40 ページなんかを前回前各部の関係と当社のモデルと比較して赤青と緑で大体ほぼ
2:07:02	同じ不確かさ見てますよということを記載させていただきましたが今回コメントを踏まえて当社としてやっぱりM9 事例が少ないことを考えて内閣府も内数まで入れましたので、これ学校リバイスされましたっていうのは、
2:07:19	もうちょっとわかるようなのを 1 枚出して、
2:07:24	いきたいなと考えております。
2:07:29	はい、お願いします。
2:07:32	今回の仕上がりがどういう地形入れてどうなったのかっていう一覧でわかることがぱっと見た感じないので。
2:07:40	そこはちょっと 1 枚入れていただくと。
2:07:43	外の方がわかりやすいと思うので。はい、中部電力アmanoでございます承知いたしました。
2:07:56	規制庁されて、すいませんちょっと先ほどの
2:07:59	いろいろページ数の話が出て、ちょっと私ごめんなさい気づいちゃったので、
2:08:05	1 点すみません補正しておきます舗装額の補足ですね、プレート間地震津波の補足の 289 ページで、
2:08:19	76 から 85
2:08:21	というNo.のところなんですけど、これらの資料の読みかえの関係で、今、P288 参照になってると思うんですけど、これ多分、次の 190 ページだと思いますので、ちょっとすみません、その辺りのチェックをお願いします。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:08:37	はい、ありがとうございます。確認いたします。
2:08:46	はい、規制庁昨日
2:08:48	特段その他
2:08:51	確認事項ないようでしたらかなり時間もオーバーしてしまいましたので、別途ヒアリングはここまでにさせていただきたいと思えますけれども、中部電力側から何かありますでしょうか。
2:09:08	中部電力ナカガワです。長時間ありがとうございましたアマノいただきましたコメントにつきましてですね、至急、適正かとをしてですね資料については早急に用意したいと思えますので、よろしく願います。
2:09:24	規制庁サグチですので本日のヒアリングはここまでとさせていただきます。どうもありがとうございました。
2:09:31	明日
2:09:33	ありがとうございました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。